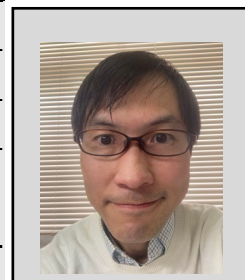


英語教育専修 英語文学研究室のご紹介 教員：小林 正臣

教員についての基本情報

教員名	小林 正臣 准教授 (KOBAYASHI Masaomi)
担当教科と分野	英語 英語文学
研究分野	アメリカ文学, ジャンル小説 (仕事小説, SF 小説等)
担当授業	大学英語, 英語講読演習, アメリカ文学 IV, アメリカ文学概論, 卒業研究 I, 卒業研究 II 等



授業についての一言 大学の共通教育科目である大学英語や英語講読演習では、大学生として求められる英語力の向上を図る一方で、それぞれの学部・学科のニーズに応じた授業を行えるようにいつも努めています。アメリカ文学 IV やアメリカ文学概論などの専門科目では、重要な作品を紹介する一方で、学生の興味・関心に応じた文学作品を優先的に選ぶことで、記憶に残る授業づくりを目指しています。

研究の内容

研究室では、学生本人が研究したいと思っている文学作品を取り上げながらディスカッションを行い、作品に対する理解を深めていきます。その一方で、作品に関する先行研究を調べたり、関連作品を読んだりすることで、理解を広げていきます。そして最終的には、選んだ作品を対象にした卒業研究に取り組みます。例えば、教科書に採用されている作品の教育効果を検証したり、教科書に採用されていない作品の教材化を試みたりすることで、リーディングの充実を図ります。いずれの研究においても、これまでにない可能性を作品に見出すことで、今後の英語教育の課題や展望（できれば両方！）を見出せることを期待しています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

以下、最近の卒業研究を紹介します。ここで扱われている文学作品は、想像の産物、すなわちフィクションです。では、なぜそのように現実ではないものが私たちを魅了するのでしょうか？ この問いに対する答えは、私たちひとりひとりの心の中にあります。みずからで問いを立て、みずからで答えを見つけること——その独自の充実感を味わうことで、ぜひ研究することの楽しさを感じてほしいです。

- ・シェイクスピア作品の教材化
- ・『ハックルベリー・フィンの冒険』を教材化する
- ・小学校外国語を対象とした絵本教材
- ・『日の名残り』におけるバトラーの表象



これまでの卒業論文の一部

研究のキーワード

英語文学, 教材研究, 教材化, リーディング等

研究室の様子

これまでは、ほぼ毎年、英語教育専修の学生と国際地域創造学部（旧法文学部）の学生が数名在籍してきました。いずれにしても、各自が研究課題を設定し、その解決に向かって探求し、研究活動を行っています。英語教育専修では、1年次から4年次による卒業研究の中間発表と最終発表に参加することができ、そこでの議論などを通じて自分の研究課題を見つけしていきます。私の研究室では毎回、それぞれが選んだ作品に対する研究の進捗を報告し、その内容について学生全員で意見を出し合っ、次回につながるようになっています。